





臣 逾 明 正 風 等 謹 上 歐 羅 巴 洲 各 國 之 政 治 考 考 之

立 法 官 之 權 殊 重 者 有 立 法 官 之 權 行 法 官
ノ 權 互 相 駢 立 スル 者 有 其 源 由 論 ス 國 勢
ノ 沿革 経テ 政府 ノ 權 各 其 輕 重 生セサル 是
故ニ 國 勢 沿革 ノ 各 相 異 ナル 是 國 政 治 各 相
異 ナル 所 以 ナリ 夫 人 民 ノ 權 強ク 立 法 官 ノ 權 亦 強
テ 強ク 行 法 官 ノ 務 徒 其 成 法 ヲ 仰ク ノ 三 如 斯
政 治 ハ 立 法 官 ノ 外 亦 別ニ 議 政 官 ノ 設ケ アル 要
セ ス 是 乃 今 嘆 咄 垂 米 利 加 ノ 制 度 ナリ 立 法 官 ノ
權 ヲ シテ 殊ニ 偏 重 ナリ シマス 行 政 官 ノ 權 ヲ シテ 又

大 正 十 一 年 四 月
大 隈 侯 爵 郵 寄 贈

五
完

殊ニ偏重ナラシメテス兩權互ニ相駢立セシラ是要ス如斯
ノ政治ハ立法行法ノ間ニ分セテ亦別ニ商議ノ官
ヲ設ケ勉メテ之ヲ平均ス是乃チ佛蘭西澳洲北利
以利時私蘭等ノ制度ナリ獨逸ノ國治ハ紀元一
千八百五十二年以前既ニ議政官ノ設アリ其体
裁亦備ハル立法官ノ規模漸々擴張スルニ及ニテ
此制度亦廢ス近今伊太利西西班牙ノ各國亦
議政官ノ設ケアリ其制度亦備ハル允各國政治
ノ異ナル其間或ハ得失アリト雖モ概シテ之ヲ論スレハ
則苟モ重キヲ政府ニ要シ行法ノ權ヲシテ撓折スル

ナカラシムル者必ク議政ノ官ヲ設ケ勉メテ之ヲ維持
ス只重キヲ立法官ニ取略者天下ノ法律皆之ヲ立法
官ニ所決シ行法官ヲシテ獨其成法ヲ守ラシムルニ
而シテ其制度亦議政官アリルヲ要セス議政官ノ設
ケアルト否セカルトニ付ヒテ各國制度ノ最モ相異ナル
所以ニ推知ス可キナリ且立君ノ政治ニ於テ其
最モ重スル所ハ政府ノ權ヲシテ恒ニ赫々正大ナラ
シムルニアリ而シテ政府ノ法令毫モ精善ナラサル所
アレハ則其權於是乎損ス政府所屬ノ規則
毫モ精善ナラサル所アレハ則其權於是乎輕

レ各地方ノ規則毫モ精善ナリサル所アレハ則
其權於是乎薄ス是ヲ以テ行法官ノ許ニ附
テ議政ノ官署ヲ設置シ法律ノ州案及ヒ諸
規則ヲ協議セシム是獨政府ノ權ヲ維持ス
ルニミラス亦國勢ヲ維持スル所以ナリ抑
議政官ノ職ハ國憲ヲ制定スル者ニ非ス然レ
トモ國法ノ州條ヲ州起シ政府所屬ノ規則ヲ
制定スルハ則其職然リトス是議政官ハ政府ノ
協議官ト看做ス可キナリ臣等私ニ今日ノ制
度ヲ考ルニ左院ノ設ケアル 歐羅巴洲各國ノ

議政官アルト具體裁甚ク相符合ス夫今日ノ
制度ハ乃チ大邦今日ノ制度ナリ豈殊ニ歐羅
巴洲ノ表式ニ倣ハシヤ然レトモ制度ノ要自カラ歐
羅巴洲各國議政官ノ實アリ蓋シ制度ハ理
ノ歸スル所ヲ以テ行ナレ理ノ歸スル所ハ
萬邦ト雖モ其異同無キ所以歟而シテ臣等
力憾ルル所ハ規模未ク盛大ナリサル所アリ
其制度亦竟ニ零物トナルニ至ラニ臣等故ニ臣
等力卑陋ヲ顧ミス佛蘭西其他各國ノ制
度ヲ照考シ議政官ノ體裁ヲ取捨シ私ニ

本院ノ規模ヲ宏張セシテ期望ス其概論左
ノ如シ

第一本院ハ政府ノ命ヲ奉シ國法ノ草案ヲ草
起スルノ權アリ

佛蘭西國議院ノ体裁ハ政府ニ於テ國法ヲ新
起シ或ハ之ヲ增加減損スル所ヨリ則先ツ之ヲ
國議院ニ命シ其議案ヲ草起セシメ且國議院
ニ於テ又其利害ヲ細論シ而シテ後之ヲ立法
官ニ出シ更ニ之ヲ公議セシム其故何トナレバ則行法
ノ官ハ行施ノ機活ニ於テ恒ニ能ク注意ス

ルヲ以テ亦之ヲ細議スルノ餘力ナシ且國法ノ
草案毫モ精善ナラサル所アリテ立法官之ヲ
拒止スルアレバ則是自カラ行法ノ權ヲ損スルナリ
是ヲ以國議院ラシテ之ヲ協議シ其精善ヲ盡
サシム亦政府ノ權ヲ維持スル所以ナリ本邦今日
ノ制度素ヨリ立法官ノ設ケナシ國法ハ則
聖上ノ英斷ニ出テ一ニ大臣之ヲ贊成ス而シテ
其國法亦或ハ精善ナラサルヲ患フルニ非サルナリ
然レトモ本院ラシテ其草案ヲ草起セシメ政府ニ
於テ亦之ヲ討論シ亦之ヲ潤色セバ精善者益

精善ナル者益善而シテ國法ノ国内ニ貫徹ス
ル者豈窮極アラシ乎臣等故ニ曰ク國法ノ州
案ハ宜シク本院ニ附シ之ヲ草起ス可シ

第二本院ハ政府ノ命ヲ受ケ政府所屬ノ法則
ヲ制定スルノ權アリ

第三本院ハ政府ノ命ヲ受ケ地方所屬ノ諸規
則ヲ制定スルノ權アリ

國法ハ

聖上ノ英斷ニ出テ正院ニ於テ之ヲ決定ス而シテ
施行スルニ當リテハ亦各服ノ規則ナカル可カラ

ス佛蘭西之ヲレーグルマン。アドミニストラツ
シヨ。ピヤリツク。ト云行法官立法ノ權ニ
承接シ此カ法則ヲ設ケ其國法ヲ擴充
スル所以ニシテ亦國法ヨリ外ナラス或ハ譯
シテ第一ノ國法ト云乃チ政府所屬ノ法則
是ナリ抑國家ノ事行政ノ機括アリ議政
ノ條理アリ之ツノ者相混ス可カラサルノミナラス
人ノ才力行政之機括ニ長スル者アリ議政ノ
條理ニ長スル者アリ故ニ歐羅巴洲ノ各國勉
メテ之ヲ區別シ其体裁ヲ異ニス本邦今日ノ

制度政府ニ於テ百官ヲ總理シ諸法則亦
政府ニ於テ之ヲ所決スルアリト雖モ實施ノ
際ニ付ヒテ之ヲ考フルニ素ヨリ行政ノ機活無カ
ルヘカラス又議政ノ條理無カルヘカラス且政府所
屬ノ法則ヲ明ニシ其分界ヲ定ムハ乃チ百官
ノ權限ヲ定ム所以ニシテ其關係亦大ナリ臣等
故ニ曰政府所屬ノ法則宜シク本院ニ附シ之ヲ
制定ス可シ

所謂政府所屬ノ法則ニ於テ亦之ヲ二種ニ
區別スヘシ凡政府ニ於テ發令スル法則ニシテ本
院ニ命シ之ヲ商議スル者之ヲ政府所屬ノ法
則ト云各省及ヒ各地方ノ長官政府ニ附ヒテ其
規則ヲ設立セント欲シ本院ニ於テ之ヲ商議スルモノ
之ヲ地方所屬ノ規則ト云政府所屬ノ法則ハ
國法ヲ擴充スルト看做ス可ク地方所屬ノ規
則ハ國法ヲ精シクスルト看做ス可シ

本院ノ職務ハ國法ノ草案ヲ草起シ政府所屬ノ
法則ヲ制定スルヲ以テ至要トス故ニ其分課ヲ設ク
ル宜シク左ノ如ニシテ然ルヘシ

第一局 諸法律ノ課 審判ノ課

第二局 海陸軍ノ課

第三局 三業ノ課 教育ノ課

第四局 外國ノ課 内國ノ課

第五局 理財ノ課 租税ノ課

凡ソ五局各其事務ヲ分課スヘシ

一局ノ内各局長一人ヲ設クヘシ蓋シ議長之ヲ命ス

凡事件小ナク則單局ノ聚議ヲ起ス可シ事件大ナ

ク則合局ノ會議ヲ起ス可シ其大略左ノ如シ

一 單局聚議ノ式

局長一人 何等以上ノ議官数名 何等以下ノ

議官数名 書記官数名

凡ソ國法ノ議案ト政府所屬ノ法則トヲ論セス

先ツ其事類ニ由リテ主任ノ課局ニ課ス於是何

等以下ノ議官先ツ其概畧ヲ檢閲シ而シテ後

何等以上ノ議官ノ論決ヲ請フ若クハ案ヲ起

スルアレバ則何等以下ノ議官其利害ヲ辯論

シ何等以上ノ議官其草案ヲ草起ス可シ

凡事件數課ニ涉ルアレバ則一ニノ局ヲ合シテ

之ヲ商議ス然レトモ其体裁ハ則單局聚議

ト看做ス可シ只其局長ハ則更ニ議長之

ヲ命ス

合局會議ノ式

合局會議ノ式ハ議長其首班タル可シ若シ議長不在ナレバ議官中ノ上席タルモノ代ハリテ権リノ首班タル可シ

合局會議ノ式ハ何等以上ノ議官及ヒ何等以下ノ議官具席ニ加列ス可シ

凡ソ合局會議ノ式分課局内何等以下ノ議官一人議長前ノ榻子ニ附ヒテ其議案ヲ公讀シ何等以上ノ議長^官尋ヒテ其顛末ヲ陳述ス可シ而シテ

後諸議官ノ聚議ヲ以テ之ヲ商議ス

一 本院ハ公民ノ訴訟ヲ審理スルノ権アル可シ

一 本院ハ審判院ト地方官ト権限ノ争訟ヲ審理スルノ権アル可シ

公民訴訟佛蘭西之ヲ「コンタンシウ」ト云
権限ノ争訟亦之ヲ「コンフリール」ト云
三ナ國
議院ニ於テ之ヲ審理ス抑公民ノ訴訟ハ獨
政府ノ権ニ關係スル而已ナラス人民一般ノ公
益ニ關係スル亦タレ只審判院ニ於テ之ヲ
審理スレバ則テ法律上ニ拘ルノ患アリ故ニ

國議院ニ於テ之ヲ審理スルハ上ニ政府ノ權利ヲ
維持シ下ニ人民ノ公益ヲ保護スル所以ナリ
歐羅巴洲ニ各國議政官ノ設ケナキ政治ハ大
畧上院ニ於テ之ヲ審理ス又之ヲ審判院ニ委
托セサルナリ且公民ノ訴訟ハ直税不直税ニ
關係亦多シ故ニ佛蘭西ノ制度小事ハ各洲
ノ協議院ニ於テ之ヲ審理シ大事ハ之ヲ國議
院ニ審理ス夫本院ハ獨リ政府ノ議政官タル
而已ナラス復全國ノ公益ヲ保護スルノ責ナカ
ル可カラス然レハ則公民ノ訴訟ハ本院ニ於テ

之ヲ審理スルハ條理ニ於テ最モ至當トセン臣
等故ニ曰ク公民ノ訴訟ハ宜シク本院ニ付シ
テ之ヲ審理ス可シ

一 本院審理ノ体裁

局長一人 書記官三人 何等以上ノ議官
六人 何等以下ノ濠官數名

一 審理局單局聚議ノ式

凡ソ訴訟ノ起ル先ツ之ヲ審理局ニ課ス於是
何等以下ノ議官一ツハ被告者ノ為メニ其
訴訟書ヲ檢閲シ一ツハ原告者ノ為メニ其

訴訟書ヲ檢閲シ互ニ其条理ヲ討論シ而ノ
後何等以上ノ議官亦互ニ其是非ヲ高議シ
了ツリテ後合局ノ會議ヲ開ク可シ
凡ソ訴訟書ヲ檢閲スルニ當リテ情實ノ詳カ
ナルヲ得サルアルハ則議長ニ請ヒ被告者及ヒ
原告者ヲ呼ビ其情實ヲ尋問シ或ハ又
之レニ附ヒテ其書類ヲ徴スルヲ得可シ
合局會議ノ式
審判合局會議ノ式ハ其局内ノ議官皆
悉ク加列タル可シ

他局ヨリ何等以上ノ議官五人ツハ議長ノ
命ヲ受ケ其席ニ列ス可シ
凡ソ審理會議ノ席何等以下ノ議官一
名原告者ノ訴訟書ヲ公讀シ了ツテ後
何等以下ノ議官被告者ノ訴訟書ヲ
公讀スハク
是ノ席原告者被告者各ヲシテ之ニ臨マ
シム可シ其情實ヲ陳述ス可キアルハ則其席
ニ即イテ之ヲ陳啓スルヲ得セシム可シ書記
官数名議長ノ右側ニアリテ陳啓スル所ノ

顛末ヲ記載ス双方ヲシテ其情實ヲ陳啓
シテ餘以彈ナキニ至レハ則之ヲ屏リソケ而
後其裁決ヲ始ム可シ

允ソ公民ノ訴訟ヲ審理スルハ最モ能ク嚴
整ニシテ殊ニ双方ノ證實ヲ得ンラ要ス
可シ双方ノ事件苟モ確證ニ充ツヘキ者
ヲ集メ而シテ法律ニ照準シテ之ヲ審
理ス

允ソ審理ノ會議ハ書記ノ長先ツ預シ
メ訴訟ノ大畧ヲ記載シ某月某日此

訴訟ヲ審理ス可キ旨趣ヲ院內王公
告ス可シ

以上五箇此審理局ヲ合シテ六箇ト定ム可シ

夫本院ハ政府ノ協議官トナリテ因テ法州案ヲ
州起シ政府所屬ノ法則ヲ商議スルノ權ア
リト雖モ往々席上ノ虚談タルヲ免カレセリアリ
夫本院設ケヤレハ乃チ可ナリ苟モ之ヲ設置シテ
徒ニ席上ノ虚談ニ歸セハ則是レ恐ラクハ政府
ノ瑣瑣ヲ生スル者アラン臣等私ニ以テ之ヲ宜
ク速カニ全國ノ範圍ヲ造リ制度ヲ定メ以

テ本院ノ規模ヲ皇張ス可シ夫範圍素ヨ
リ速カニ全成スヘカラス制度速カニ一定
スヘカラス然レ而テ臣等之ヲ制定セント
欲スル者私カニ説アリ夫歐羅巴各國ノ
政事ニ於テ尤モ能ク注意スル所ノ君ハ
歳入歳出ノ兩事行ノ三今本邦政府
各省ヲ設置シ各地方官ヲ建設シテ其事
務ヲ擔當セシム一省一州ノ長官タル者就レ
カ其才ヲ爭ヒ其能ヲ競ヒ以テ其事業ヲ
奉クルルヲ期望セラル者アランヤ苟ク其事業

ヲ起スニ當ルニシテ鉅萬ノ大金ヲ費ヤサザル
カラス然リ而テ皆之ヲ并理スルモノ獨リ一ツノ
會計事務省ノ三各省各州ノ官署相
ヒ一ツノ會計事務省ノ并理ヲ要スル則
之カ制度ヲ設ケ其定限ヲ定タルニ非サレハ
其弊害救フヘカラサルニ至ル必セリ故ニ方
今天下ノ政事ニ於テ一日モ忽ニス可カラサル
者ハ則テ範圍制度ニシテ其尤モ至急ニシテ
至要ナルモノハ會計ノ制度是ナリ臣等
伏シテ願クハ歐羅巴洲各國立法官ノ体裁

ヲ取テ其大要ヲ陳述セン^夫蓋^夫歐羅巴洲ノ
各國其各年ニ於テ各省毎ニ翌年施
行スヘキ事務ノ經費ヲ預定シ之ヲ冊
子ニ登記セシメ而シテ之ヲ政府ニ聚メ各州
ノ冊子ハ内國事務者ヲ經テ亦之ヲ政府
ニ聚ム之ヲ前計表ト云而シテ政府ニ於テ
各省ノ諸卿ヲ集メテ之ヲ聚議シ決議
ノ後會計事務宰相各省ノ前計表
ヲ聚メ自カラ持シテ立法官ニ呈リ使
其公議ヲ請フ是ヲ會計會議ト云フ

其制度要ヲ得ル此ノ如シ今夫各省
事務ノ興廢ハ其消費定額ノ由ルニ
関由スルナレハ則是レ速カニ之カ制度ヲ
メサルヘカラスレカリ而シテ^立立法官ノ設ケ無ク
是ヲ以テ會計會議ヲ開クモ亦其官署
無シ故ニ臣等以為ラク彼歐羅巴洲各
國ノ制度ヲ取捨シテ其規則ヲ設ケ乃
チ之ヲ本院ニ任シテ全國ノ前計表ノ
案ヲ草^起シ政府ニ於テ其會議ヲ起
ス可シ本院ハ素ヨリ政府協議官ナルト

キハ則其是ノ事ヲ任スルモノ亦其當ラ
得ルト謂フヘクシテ而其坐上ノ虚淡ニ
属スルノ弊亦自ラ之レ無カルヘシ

一左院ハ政府ノ命ヲ受ケ各省及ヒ各地方ノ
前計表ヲ檢閲シ又其條款ニ付ヒテ或ハ之
ヲ加増シ或ハ之ヲ拒止スヘキヲ商議シ而
シ而シテ後政府ニ於テ會計會議ノ刑局
アラニテテ請フヲ得ヘシ

各省各地方ノ前計表ハ歐羅巴各國ニ於テ
用ユル所ノ表式有リ之ヲ取捨シテ製スヘシ

凡ソ會計會議ノ式本年ニ於テ各省各
地方官皆其翌年一切ノ經費ヲ算計シ
之ヲ冊子ニ記シ某月某日ヲ期シテ左院ニ
致ス左院盡ク之ヲ檢シテ異議有アレハ則
其者ノ長官若シクハ其會計司ニ討論メ
之ヲ取捨シ左院ヨリ某月某日正院ニテリ
テ云計會議アリタキヲ上^請願スヘシ於是
左院議長及ヒ何等以上ノ議官其前計
表ヲ持シ各省ノ順次ヲ追テ公讀ス
會議ノ式玉座ヲ中央ニ設ケ三職及ヒ各

左
完

省ノ所輔位列シモシ異論アル則其係下ニ
記レ協議一定スルハ則三職所輔之ニ調印
シテ原本ハ左院ニ確藏ス
凡ソ前計表金負議^定後ハ猥リニ之ヲ増ス
ヲ許サス若シ必ス之ヲ増サニルヲ得カニ寸ハ
則其省ノ長官左院ニ協議シテ更ニ會
計^云議ヲ開クヲ請フヘシ
凡ソ各省各地方ノ前計表ハ總テ左
院經濟課ニ於テ之ヲ檢査シ且リ之ヲ
改正スルヲ得ヘシ

夫前計表ハ粗ヨリ密ニ入り略ヨリ詳ニ至リ
漸然トシテ其詳密ヲ得ルト雖^凡而カニ全
國ノ歲入總額ヲ詳カニセサレハ何ヲ以テ其
粗畧ヲ捨テ、詳密ヲ取ルヲ得ニヤ歐羅巴
各國ノ制度必ス勘定ノ官署ヲ置ク本邦
今日之ヲ欠クニ似タリ故ニ臣等私カニ為ラ
ク今ノ時ニ於リテ宜シク先ツ此端ヲ左院ニ肇
メテ各省各地方ノ前計表ヲ檢査スルノ務
ヲ斯^ニ任スヘシ而後他日其規則表式ノ結構
詳密ニ至ルヲ得テ則別ツニ一局ヲ建置セハ

制度備整ニシテ歳入出ノ法以嚴精ナラン
夫佛蘭西ノ制度殊ニクールトコント之
設ケ有リ之ヲ譯シテ大計算司ト云フ乃
チ全國ノ歳入出ヲ計算スルヲ掌ルナリ然
モ其法ハ毎作ニ付ヒテ悉ク其当否ヲ精
檢スルニ非シテ唯其出入ノ違算有ルヤ否
ヤヲ檢算スルナリ凡ソ直税不直税ノ徵
税司ニテ收徵スル所ノ税金ハ直チニ之ヲ
會計省内ノ收納司ニ納ム於是收納司
ヨリ其現金数若干ヲ請ケ取ルノ證書

ヲ授ケテ之ニ答フ而シテ徵税司又更ニ目錄
ヲ作り地稅数若干人稅数若干窓戶
稅数若干ヲ詳載シ之ヲ會計省内ノ
精算司ニ納ム精算司之ヲ檢算ニシテ
違算ナキトキハ亦其違算^{ナキ}證書ヲ授
ケテ之ニ答フ是ニ於テ徵税司此ニツノ
證書ハ乃チ亦之レヲクールトコントニ
上納ス是ニ於テクールトコント亦之ヲ
檢閱スト云フ其精ニシテ且ツ嚴ナル斯ク
ノ如シ故ニ臣等願クハ是法ヲ斟酌シテ

更ニ制度ヲ肇設シテ全國歳入出ヲ
檢算スルヲ務メハ之ヲ本院ニ任セシメテ
彼佛蘭西ノクォールトコントノ如クニセンコトヲ
其大畧左ノ如シ

一各地方ノ租税及セ港上関ノ租税ニ至ルマデ
必ス之ヲ大蔵省内ノ出納司ニ納ムヘシ以
時ニ當リテ出納司其請取證書二紙ヲ
作りテ之ニ授ク可シ各地方官及セ港上
関ノ官吏其ニ紙ノ證書ヲ得テ一ツハ其
署内ニ收メ一ツハ之ヲ左院ニ納ムヘシ而シ

左院其證書ヲ集メ某月某日ニ至リ録
シテ幾冊ト為シテ亦之ヲ檢算シ其原
書ハ之ヲ本院ニ藏シ而シ其副本ハ之ヲ
正院ニ進呈ス可シ

歳入計筭ノ課ハ本院内ノ經濟課
ニ於テ別ニ其分課ヲ設ク可シ

明治六年十月

三等議官高崎正風
二等議官西岡逾明



